

センターからのお知らせ

最近のできごと

1. Web サイトのリニューアル

平成26年5月にWebサイトをリニューアルしました。これまで統一されていなかった片平地区と青葉山地区のWebデザインを統一し、共通した情報をトップページにまとめました。また、各地区にもそれぞれトップページを作り、各地区のユーザー向け情報(お知らせや、ヘリウム・共同利用機器の予約)に素早くアクセスできるようにいたしました。センターからのお知らせを随時発信いたしますので、ご利用ください。また、ユーザーの方はもとより、学内外の方やこれからセンターを利用する方々にもわかりやすく情報を提供できるよう、これからも改良を重ねていきたいと思っております。ご意見・ご要望がございましたらお寄せください。



図1 リニューアルしたWebページのトップ画面。URLは <http://www.clts.tohoku.ac.jp/>

2. 中学生・高校生の訪問・見学

低温科学部では平成25年10月23日に仙台市立上杉山中学校から1年生(4人)、平成26年7月30日に青森県立黒石高校から2年生(引率の先生

を含み7人)の訪問・施設見学がありました。

仙台市立上杉山中学校訪問は同校の総合学習の一環として行われている「職場訪問」として実施されたものです。科学研究における低温の重要性、東北大学における極低温科学センターの役割について、施設見学を交えながら紹介した後、研究職に関する様々なフレッシュな質問と将来の仕事に関する相談等を受け、濃い内容の訪問となりました。

青森県立黒石高校訪問では、ヘリウム液化システムの見学、液体ヘリウムのトランスファー、液体窒素を用いた酸素の液化、ポンピングによる液体窒素の三重点の観測、銅酸化物高温超伝導体を用いた磁気浮上といった様々なデモ実験を行いました。予定した時間をすぎてしまうほど楽しんでいただきました。

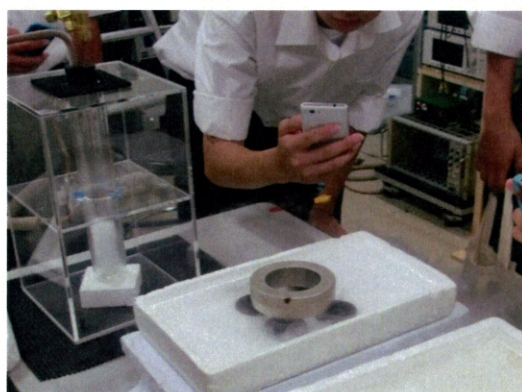
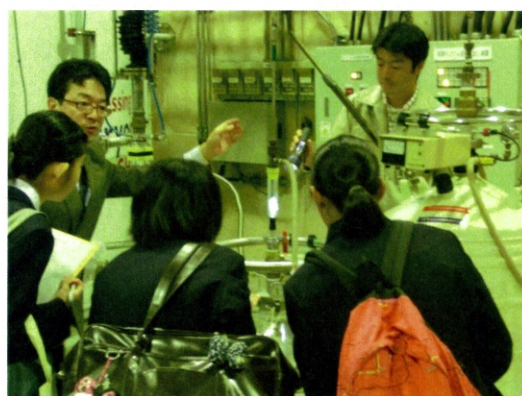


図2 上杉山中学校の施設見学(上)、黒石高校の高温超伝導体を用いた磁気浮上実験(下)の様子。

3. オープンキャンパス

東北大学のオープンキャンパスが平成 26 年 7 月 30 日及び 31 日に開催され、これに青葉山地区の極低温物理学部も参加しました。オープンキャンパスは、大学の授業や研究内容を高校生に知ってもらうために毎年行われています。本年度も、「極低温の世界」というテーマで、低温でおきる不思議な物理現象について公開実験を行いました。開催期間中に突然の豪雨に見舞われるアクシデントがありましたが、例年通り大変盛況でした。

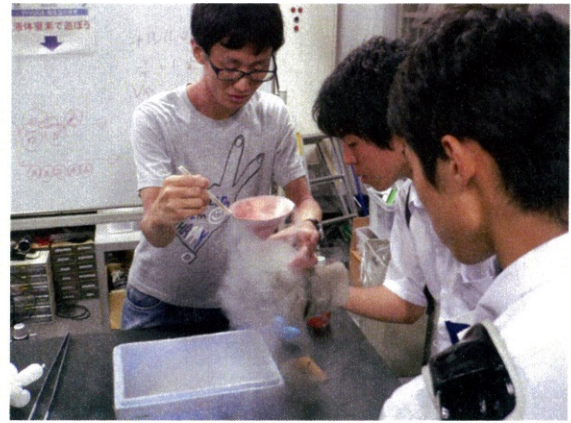


図3 オープンキャンパスで液体窒素を使ったデモンストレーションをしている様子。

お悔やみ

深瀬 哲郎 先生

深瀬哲郎先生（東北大学名誉教授(77 才) (金属材料研究所)）が平成 26 年 8 月 31 日に逝去されました。深瀬先生は極低温科学センターの前身である低温センターの時代よりセンター教員を兼務され、センターの運営・発展に多大なる貢献をされました。特に、平成 5 年の旧低温センター (片平) のヘリウム液化機の更新、平成 8 年の極低温科学センターへの改組では中心的な役割を担われ、当時の先生のご尽力により現在の極低温科学センターの基盤ができていると言っても過言ではありません。また、先生のご専門であった高温超伝導体を含むエキゾチックな性質を示す物質群の低温電子物性研究についての多くの研究成果については挙げるまでもありません。研究者としての深瀬先生は、実験に対して非常に真摯な姿勢で臨まれ、退職を迎える当日までご自身でガラスデュワーにヘリウムを汲みこみ実験を行われていました。口には出されませんでしたでしたが実験研

究者としてのあるべき姿を自らの行動で後進に示されていたことを改めて肝に銘じたいと思います。低温物性物理学への静かで深い愛情と暖かい人柄で低温研究関係者に多大な影響を与えた深瀬先生のご冥福を心よりお祈りいたします。

(記 平成 26 年 9 月 18 日 佐々木孝彦)



(平成 7 年 6 月 研究室にて)